

盛典

國境の移民

27

人物

前田敏夫

若き夫の
特長

前田 秋子

田村 安子

格臣の妻
おと
子と
同
斗
斗

郵侯夫

人

國境鹽課人

米 国 畫 人 二 人

士
人

人

場所

丁

大平洋（海）の

采墨國境線
仁
鉛子

塞国領

四 建 乙 乙 十 下 了 莫 是

新臺、
後方、
山、
野景に
（）
永国、
国境、
貨物、
人

加鉄を肩に
往來して
居る。
前重
り左方に
カ

ク
テ
ス

サ
ホ
ー
ン
等
等
常
国
性
植
物
等
子
前
方

に道路を囲み、右方に、茅屋あり茅屋あり人

口は菊に面し、前坐。
用ケ、
放し
とす

時
日
漫
時

月一

牧子
新等番を著し
堅を草めし
鞠未及

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

秋子。白くかろくたし生え来て前すわすり

方にあや倚りなふさ まー、どうした人で

いやう、未だ歸つて見へたり、(遠く迄、此

、おなに見え、無くなるといふ、も人びや無い。

(いほくくし) 女ーいやに方ろこまり

。 親も、白毛のお母さんか、おふ、此人

な若芳し〜(おや) 方人、尊にも思つて、(おや

しなり、(お) 国地、人を所り向つて) まー

いやに方ろすまり、毎日、(鉄砲を鳴りて

るのを、見ると、氣がまになつてしまふ、お、お



はせつと氣が作らぬ、あー、早く何處かへつて

しまつたい。(親を仰向け、い、い、よく

(お母の) 言葉が、聞くと、お母さんが、(お母) 待つてたか

また聲で懐く、(お母) 待つてたか

(お母) 懐か、たのしみ、(お母) 待つてたか

(お母) 親を、お母さん、お母さん、(お母) 待つてたか

は、す、かり、足るため、お母さん、お母さん、

(お母) 心か、本意に、お母さん、お母さん、

(お母) 親、お母さん、お母さん、お母さん、

(お母) (お母)

の(下)

(敬)

そりか 何と書い〜 教

書き宛に親友と書くこと

(社)

未だ切てある方々へ

(分社を宛あて)

(敬)

大に座る 旬切す

(社)

何と書いてあるまうの

種を括〜 親友

にする

(敬)

現在(高) 古が形 (何故 先生を雪ぐす)

敬 夫等々 終り〜 分社を 佐藤氏にす

(社)

何と書〜 素直にたの

(敬)

い〜 何とも無〜 争ふが 落す 分あめ〜

(社)

いも 何か書い〜 なる べい かり 親友

(敬)

い〜 ち下 言ふ 分 終り いた かり 入

(社)

の(高)に〜 悪〜 事 あり

(敬)

(要) 胸を〜 かな〜

(社)

男也〜 (年輩の 分社を 取とる) 親友 書き宛と 同

女〜 (分社を) 見〜 分 あり

(敬)

い〜 いかん

(社)

うた〜 (分社を) ち〜 分 あり 書き宛に 分 あり

分 あり 分 あり 分 あり 分 あり 分 あり

分 あり

1

牛志等一等

あ
う
え
お
か
き
く

用おもて
下敷

用
か
え
う
下

用
か
え
う
か
せ
う
う
う
う

④
 たりや
 分り
 する
 上
 あり
 下
 何
 何
 何
 何

う
た
の
や
事
の
に
お
う
た
の

新
二十
七
日
読
す
大
お
氣
の
お
め
え
入
吾
等
下

3	;	127
---	---	-----

何4名まで
（要るヤはし）

中一
 壹
 紅生いす
 本
 書の事を結ぶ
 二
 本

(風)
 おうヶ壺
 料亭
 飯をに垂の、蛇とつゝゝ
 へ傷なく

(9x)
本
一
認
留
の
あ
い
に

そ
う

お
五
十
七

和
達
の
事
を
伝
へ

と
心
配
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

カ
ニ
来
左
也
ア
カ
カ
ス
位
ヤ
レ
冬
ク
ノ
ハ
カ
コ
カ

(Sung)
あ、
ア
あ、
い
ふ
え、
お
え。
三人
方
心
死
事
は
下
有

は
も
た
え
き
に
た
る
人
の
用
意
を

[illegible]

既
合
マ
か
~~無~~
マ
抄
ハ
~~無~~
マ
カ
日本を
下
、
等の

お前
に
た
、
~

人

乙十や朱々数 事心丁あ


 8
 1
 2

(地)
と
ー
も
こ
し
た
は
あ
く
ろ
い
ち
ん
そ

友田参一の五里村に己十聖介と名
張牙やう友日支人

号也 万小十 P
 無 7 9
 在 在 人
 無 2 2
 (4 子 泣 子 泣 子 泣)

考ふ、胡他事は、
 在る。尋つて、
 日吉、其の
 其の、
 和

[illegible]

つ
も
ち
も
靴
底
又
鉄
砲
か
う
い
す
の
お
ま
け
は
靴
は

也、在がV白
争ふ徑に
云う柳
心す葉

今更古人言，古人心，任其文，此心也。

無心
有為
自然
之理
前已
略述し
た人

加
や
無
一
加

(料) 夫人万事は言ひ安し才女は

張
十
知
左
畢
た

(北)
和
は

と
は
は

も
じ

佐
子
左
あ

無
い
の

言の友
 佐々木
 方々
 日平

歸水
馬鹿
子世
9
すあ
。か
う
長
年
時
言
、
女
幸
た
手
保

(北) 注生方へ
得りし
器本
才足
~~也~~

船十萬り
 事ある
 船りた
 たる
 船時む

船
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

(博文堂發賣)

壹万五千七百八十八元

[illegible]

牙ま~~あ~~たゐり

42
2
+ 4
L
2
1
K
L
0

ね 事 富 事 たふ 無 事

朝
う
に
た
や
と
那
も



たろ
と
た
あ

国境の難民の

五
と
し
け
ろ
、
そ
う

た
、
—
三
||
+

A blank grid for drawing a diagram, consisting of a 10x10 array of small squares.

厚今から
くづ

十
二
世
文
案
不
定

7
12
2
5
10

人可也小
書之

之竟新女 永凌也

A blank coordinate grid with x and y axes ranging from 0 to 30. The grid is used for plotting the graph of the function $y = \frac{1}{2}x^2$.

今日軍中

日本人も彼らも 彼らも、物産すやうに有、た
 3 強方、に、面をくはひ、まゝ、其、まゝ、
 一、強、お、前、の、花、は、
 (北) そう、い、立、後、一、支、う、い、
 中、書、う、お、隣、り、米、國、に、行、き、左、右、
 (南) 國、民、を、救、う、ま、か、い、
 (北) 解、
 (南) 一、昨日、も、四人、許、り、
 中、や、あ、う、な、り、は、
 中、た、た、あ、あ、く、も、
 中、た、た、あ、あ、く、も、



(北) 心、生、来、古、い、事、は、無、く、
 悪、い、人、々、五、人、た、一、人、
 中、事、
 (北) さ、り、や、
 中、鉄、
 一、次、
 (北) 運、命、
 中、何、
 中、生、
 中、生、

替

(第2) 斯ミル
悟を以て
為す。
スミル

秋
 之
 有
 難
 入
 お
 花
 び
 極
 美
 子
 子

愛
 抱まづ
 お
 落い
 あたのし
 お
 和歌
 一
 くる

此地
丁度良小
佐市
今新し
馬込の
新井

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

4
20
7
2

(冬)
 氷
 4
 冬
 4
 1
 2
 産
 び
 し
 や
 り

④	7	7	本
	1		書
	2		へ
			す
			カ

大いなる愛の海に
身をまかせよう

又
昔
借
に
比
て
下
の
境
は
こ
と
に
格
々
人
列
の
折
入
振

42

[illegible]

本書

(5) 20
 1
 (北) 4
 1
 1
 1
 1
 1
 (北) 4
 1
 1

田
 子
 に
 無
 い
 す
 ち
 の
 か
 し
 よ
 ね
 な
 め
 な
 る
 中
 に
 切
 り
 ま
 わ
 る
 す

受) (樹をいっし) にも 前 町 能 を やる 人 すや 英の

其年八月
令
人
言
之
一
也

いーおひ
おまけおひ

(2)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(3)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(4)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(5)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(6)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(7)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(8)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(9)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(10)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(11)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(12)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(13)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(14)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(15)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(16)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(17)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(18)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(19)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(20)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(21)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(22)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

(23)

おまけおひ

ひんた

おまけおひ

いり
びり
や
り
子
を
金
付
け
て

やうな支那人筆をフケ乙子上。交入初

十
以
知
智
を
見
〜
等
之
其
體
天
全
一
た
る
人

上

二 何 <u>身</u> 端 に	キ
ス ニ 一 ヤ ス を へ 〜 ハ ヨ ル に	ズ セ
ト 年 に	

増えを
暖にのこ
り
加減を
全隊
上。

~~秋~~
愛人
は
驚
た
友
院
石
鏡
望
乙

24
12

受(17) 7月
と 贈年左算心

あ
う

ふ
十
は
や
に
く

いり 子 子 子 子 子

妻
主人
会
院
主人
12
鐵
砲
花
刀
14
2
号

と
あ
ま
の
う
た
を
か
き
し
る

抄
付
あ
1
4
-1

やま
ふ
は
か
あきら

びんたに訴す情を

子 ぞの 自から 榮 豊 盛 とも 同子

(4) これはお上り(家)に往す(句)においけど

海
何
に
毛
ナ
と
た
い
書
有
難
う
世
之
心
書
愛
乙

本久、
田代の
英訳を
為す事
に、
子、
たの

(2) 7、8、9

② 3 4 2 = 10

飯田孝、
知、之、學、生、子、
也

意
欲
一
解

句
端
ちや
無
い
の

夫
女
の
子

たもつ

(致) 和人の借書人松本方一

冬
それであ
まゝ
毎日
夕方に
田舎境
線迄、
乗車

の
集
習
の
や
)
に
一
二
軽
子
の
人
之
~~あ~~
あ
品
類

9 第 人 12 期 9 四 結 台 位 之 子 第 3 一 二 7 5

てあ
（カキ入来）
七月五日
子孫の
名

二 親 人 一 二 三 一 度 教 堂 に 二 三 一 海 待 し

ん
 や
 子
 ん
 一
 子
 子
 見
 ん
 や
 う
 う
 ん
 史
)
 ん

夫もよく入一番良の方だと言、

り
ま
ー
た
ふ

え
ふ
ふ
う

き
せ
の
い

と
め
・

つ
ち
う

友の国を訪問して、中東沿岸の油田を巡視する。

終
 12
 出
 3
 3
 3
 ~
 +
 4
 3
 T
 1
 ~
 夜
 明
 17
 12
 裁
 9

中 又 夜 路 二

位米く
荷物白
物本
予等
一
振廣人

其、
費、
生、
人、
和、
我、
力、
中、
に、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

敬
祈
す
か
同
じ
け
ど
ー
に
替
り
ます

（受）
七月四日の存は也。
米国人の著を乞へ
贈之乎。

数
 十
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

⑧ 三十か死になりますか

⑨ 一 目暮つて方々 其の上に 黒田親

の番人は皆方 針巻に 針巻一オすじし

⑩ 来ますかあう

⑪ 来ますとも 来やうに 和久雄一オす書

⑫ 大鑑たりか (変態一たか)

⑬ かに 左様か 無きもの、 心なきやうつた 花ノ

⑭ も 叶えて成巧も 素直もあやう方いもの

⑮ かくじへた 物をせきにー下てい

⑯ 一 心 花の十時頃みう 空のえに

⑰ 何れー、 それも一睡信り同く花を十人ほありと

⑱ 何れり 美人々々も 好す 好すのを 三四人は 吾れ

⑲ 銭の回 回つて 花を 来ますと

⑳ 来ますかあう 老い

㉑ 来う男のくもる 花のたね ともすや

㉒ 来うすく 来うすや 来うす

㉓ 来は 来り大 来り 来り

㉔ 来まきー 来まき 来まき 来まき

㉕ 来まきあまき 来まき 来まき

㉖ 来まきあまき 来まき 来まき

知

欠ル角
 三十
 ちヤ
 布を
 照る
 目陰を
 減
 4
 5
 5
 5

二十から
 備一
 方とす
 方う
 方い
 方よ
 水
 草
 草
 草

(第) 高し 女 運 十 十 や
北 十 七 月 入 ~
冬 口 記 年 老 今 付

心的使用技巧

(8)

大
大
大
大
大

市
三
千
五
百

朱
之
一
等

(字)

姓
大
黄

姓
人
子
小

精
口
和
书

12
馬
鐘
行
回
は
ふ
ふ
、
あ
方
な
う
才
方
ふ
ふ
、

(4) 全席に
同位塩に焼く
末に
エト
粉の
心配は入る方の

木々々々
七回
とうたあ
かき
あ

(受) 課
た。
うし
す
けで
は
無
この
いも。
又
どうか
ねあ

了
所
事

(
年
下
林
子
在
吳
之
夥
至
七
雲
々
了
)

い
う
方
左

三
 廿
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九

⑧
一
や
ん
あ

そ
う
な
事
言
う
は
い

交
ふ
い
い
も
良
い
書
牛
角
餅
手
打
茶
又
新
刊
書
手

12
1
2
書
子
西
日
朱
之
分
イ
2

42
7
1
5
2
6
1

[illegible]

あつたにあら

又集すよ

由打琴に
 32
 由打琴に
 今更
 時日
 清江

(世) 胡蝶入らういやうな 越えあ、車くてもよいのよ。

笑ふ顔し、笑み身首を返す。また、笑み見送る。き永くお
き子留め、き子留めを返はし、き子留めは、き子留め、き子留め、
き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、
き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) どうして

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) おう、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、



お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

(世) お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

お前、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、き子留め、

井新屋

始めこの板敷期も来ぬのに 壁前等

調子や、米国のつゝ 思ひ板 ^の 壁 ^に 車 ^を 玉

知 ^に や ^つ 人 ^よ 命 ^を 利 ^に した だけの賣 ^り

け ^に 無 ^り み ^も 方 ^を け ^よ

④ ^に 下 ^に 板 ^を 利 ^し 見 ^る ち ^や 分 ^り ま ^を は 今 ^の ち

そ ^人 古 ^に 是 ^を 踏 ^ん か ^つ 一 書 ^き ぶ ^も 利 ^に

半 ^分 右 ^の 左 ^の ち ^を け ^し とも ^に 橋 ^を 来 ^た 何 ^だ

ち

⑤ 今 ^の 考 ^え ため ^に た ^う 日 ^本 に 師 ^へ 新 ^に

付 ^き 着 ^き ち ^を 木 ^だ 田 ^に や 花 ^を 平 ^に 通 ^り た ^と 思 ^ふ

研 ^究 手 ^新 や ^一 剣 ^で 竹 ^一 さ ^か 其 ^一 上 ^に た ^め

何 ^だ 一 ^た ち ^を 東 ^京 で 女 ^の 合 ^い ち ^を 一 ^た ち ^を 何 ^だ

⑥ 利 ^が 女 ^の 合 ^い ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑦ 何 ^だ 一 ^た ち ^を

⑧ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑨ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑩ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑪ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑫ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

⑬ 何 ^だ 一 ^た ち ^を 一 ^た ち ^を 思 ^ふ 一

お利に倅が
お利に倅が

腹かきすすすすすすす

す
所
等
の
指
に
違
ふ
に
違
ひ
に
~~ある~~
ある
所
と
か

藤 山 入 江 小 十 方 Tv 花 限 一 活 新 力 如 き

た
9
た
1
2
は
き
く
〜
お
の
あ
人
た
あ
う

女
 子
 教
 育
 は
 伊
 呂
 波
 左
 矢
 東
 方
 人

教授に
仰せに
おつた
に
いそ
やう

度 幾 何 左 子

節操
矯揉
うろたへ
2P の自然な非言語的表現

[illegible]

42
昔
今
冬
た
う
昨
お
上
利
和

百
看
久
一
才
丁
木

女
 活婚之
 言りぬは
 一も二も長
 買
 日本等に

著者

天三利人司公

抄本

第十卷